

# 「論理国語」学習指導案

令和7年11月17日  
第2学年6組39名  
授業者 松永 千希

1 科目 「論理国語」 大修館書店

2 単元名 「スキーマと記憶」

3 科目の目標（「論理国語」の目標）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

4 単元について（学習内容の概要・ねらい、生徒の実態・学習の予想、その他の工夫）

本単元では、「思考の枠組み」をテーマとする2つの文章「絵を見る技術」「スキーマと記憶」を扱う。

中でも、2つの文章に共通して出現する「スキーマ」という言葉は、生徒にとって辞書的な意味だけでは理解しづらい意味を持っている。一方で、このスキーマは人間が学習を行う際に無意識ながら誰しも用いている知識の枠組みであり、意識化することで様々な学習に効果的に働くものである。よって、本単元では、国語と社会（歴史）という共通必修科目である2教科が連携し、各教科の学習方法についてメタ的に考えを広げる中で、それぞれの教科内容や学習過程におけるスキーマについて理解を深める言語活動を設定している。

本学級の生徒は、日頃の授業から積極的に発言し、仲間と協働して課題に取り組むことができる一方で、「〇〇の勉強の仕方が分からない」「勉強したけど点数が上がらない」などといった悩みを訴える生徒がしばしばみられる。今回の単元を通して、スキーマという言葉の表面的な理解や筆者の主張の読解に終始せず、自らの学習の仕方や物事の捉え方について、今一度立ち止まって考えることを期待している。

5 単元の目標

- (1) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。（知識及び技能）(1)オ
- (2) 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。（思考力、判断力、表現力等）読むこと(1)キ
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。(1)オ)	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。(読むこと(1)キ [考えの形成])	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

## 7 社会科（日本史探究）の目標

### 2 内容

#### A 原始・古代の日本と東アジア

(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現すること。

## 8 指導と評価の計画（全4時間扱い）

次	主な内容・学習活動	評価規準	評価方法
1次	○単元の目標・学習内容を確認し、学習の見通しを持つ ○導入ワークを行う ○「スキーマ」について、教科の学習と関連させながら理解を深める	[思] [学]	「記述内容」 (ワークシート)
2次	○第一段落を読み、筆者の主張と具体例を理解する		
3次	○スキーマと記憶の関係についてのワークを行う ○第二段落を読み、筆者の主張と具体例を理解する		
4次	○第三段落を読み、筆者の主張と具体例を理解する ○本文全体の展開、筆者の主張を整理する。		

※「知識・技能」については、定期考査での確認とする。

9 本時の展開例（1 / 4時間）

段階 時間	主な学習活動（学習内容）	指導上の留意点	評価の観点・ 方法
導入 (10)	○本教材で扱う「スキーマ」について、 前時までの学習内容や認知科学の実験を 用いて本時の学習内容の流れをつかむ。	・本時の見通しを持たせる。	
展開1 (10) ↓ (10) ↓ (12)	○教科別ワークに取り組む。 個人→グループ(4～5人)  ○2名ずつ別のグループに移動し、 国語と社会両方の内容を共有する。  ○各班からクラス全体に発表する。	・適宜、机間支援を行う  ・回答傾向、興味深い回答など、 全体で共有すべき視点や考えを 整理しておく。	
展開2 (8)	○授業者による本時のふりかえりを行い、 次回に向けて単元のポイントを再確認 する。  ○ワークシートを提出する。	・学習内容をフィードバックし、 次時の内容へつながるような展 開に持っていく。	〔思〕〔学〕 →ワークシート の点検